

年 組 番 名前

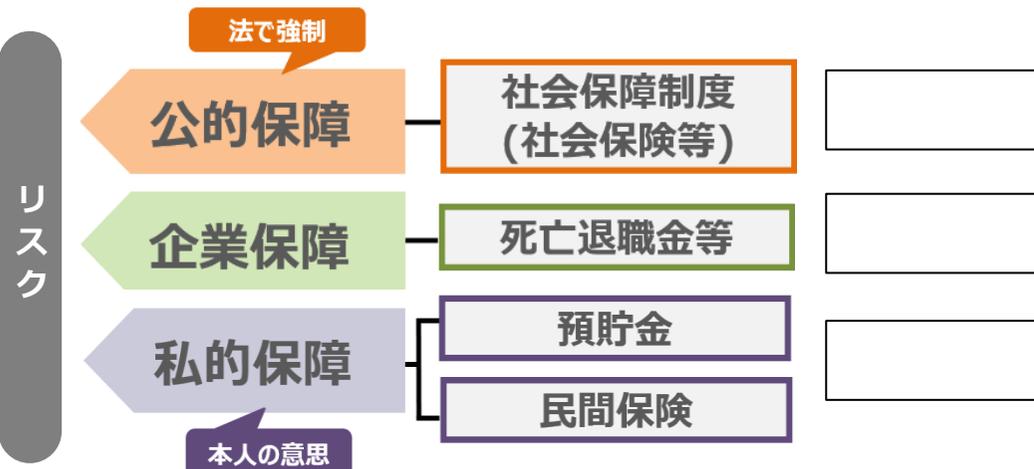
1. リスクへの備え

[1] リスクとは何か

リスクとは、 で、起きるとお金がかかること。

[2] リスクに備える3つの保障

※保障：もしものときに生活を守るもの



[3] 社会保障制度の概要

社会保険

制度	主な保障の内容
1. 公的医療保険	<input type="text"/> や <input type="text"/> にかかる治療費
2. 公的年金保険	老後 <input type="text"/> 状態時 } の生活費など
3. 公的介護保険	<input type="text"/> 費用 (訪問介護など)
4. 労働者災害補償保険	<input type="text"/> のケガ等の治療費
5. 雇用保険	<input type="text"/> 時の生活費

2. もしもリスクが起きてしまったら・・・

[1] 事例① 足の事例で骨折し、手術・入院が必要になったら

Aさん（23歳）は、友人とスノーボードをしているときに、足をひねる状態で転倒し、大ケガを負いました。レントゲン検査の結果、ねじったように骨折しており、翌日手術を行いました。そして22日目には無事退院をすることができました。このとき、医療費などはいくらかかったでしょうか。

どんなことにお金がかかるか考えてみよう

① 必要となるお金

かかった医療費 約 円

その他 約 円

合計 約 円

② 入ってくるお金

公的保障 約 円

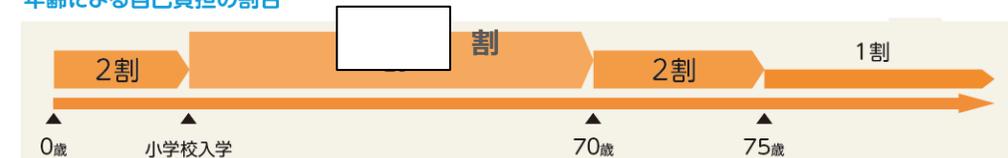
合計 約 円

※実際は健康保険組合などから医療機関に支払われるもので、高額な立替えが必要なものではありません。

③ 自分で準備する必要があるお金 約 円

[2] 公的医療保険

年齢による自己負担の割合



医療費の自己負担額が高額な場合は「高額療養費制度」が活用できる。

[3] 事例② もしも亡くなってしまったら

Bさんは今年45歳。妻(42歳)はパート勤務(年収130万円)、長女(10歳)・長男(8歳)がいます。現在の生活費は月約29万円、家は持家です。

(1) 「何」に「いくら」かかるか考えてみよう

(2) 必要なお金はどうやって準備するか考えてみよう

①必要となるお金

生活費	約	<input type="text"/>	円
子どもの教育費	約	<input type="text"/>	円
その他	約	<input type="text"/>	円
合計	約	<input type="text"/>	円

②入ってくるお金

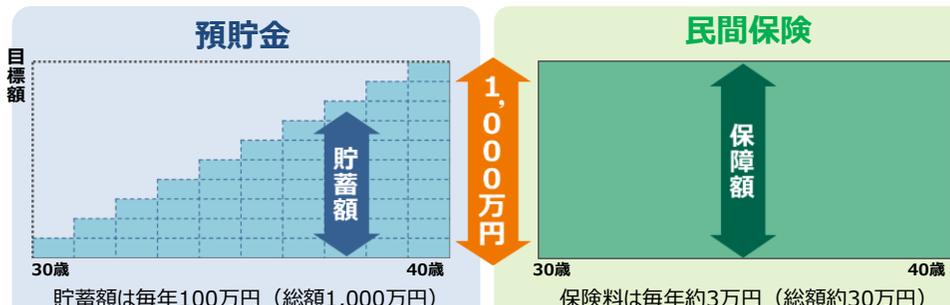
公的保障	約	<input type="text"/>	円
企業保障	約	<input type="text"/>	円
妻の収入	約	<input type="text"/>	円
合計	約	<input type="text"/>	円

③自分で準備する必要があるお金

約 円

3. 自分で準備する「私的保障」

[1] 預貯金と民間保険



特徴 目的のために貯める

- メリット
- 貯めたお金は自由に使うことができる。
 - 途中で引き出しや貯めるペースが自由。
 - 預けた金額に応じて利子がつく。

デメリット ●途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、 金額が貯まっているとは限らない。

特徴 の損失に備える

- 途中いつでも、病気やケガ等のリスクが発生した場合に、あらかじめ 金額を受け取ることができる。

●結果的にリスクが発生しなくても、決められた金額を保険料として支払う必要がある(保険の種類によっては一部戻ってくる場合がある)。

[2] 生命保険と損害保険

	生命保険	損害保険
対象	<input type="text"/>	<input type="text"/>
受取額	あらかじめ約束した金額(定額給付)	事故により発生した損害額(実損填補) <small>じっそんてんぽ</small>
備えられるリスク	●死亡 ●病気・ケガ ●老後 ●介護 など	●交通事故 ●火事 ●台風や地震 ●ケガ など

4. まとめ

- ①リスクに対して3つの保障手段で備えることができる。
- ② と企業保障で不足する部分を で補う。
- ③ と にはそれぞれ特徴があり、使い分ける必要がある。
- ④家族構成や年齢などによって、身の回りにあるリスクは異なる。状況に応じて を考えよう。

今日学んだことや気づいたことについて書いてみよう
